

授業科目名・形態	精神看護方法論Ⅱ	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	畠山 禮子・高山 新吾	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題】

精神を病む人とその家族が抱える問題を理解し、精神看護に必要な実践方法を学ぶ。
代表的な精神症状・状態について取り上げ、看護実践に必要な看護技術、看護過程について学習する。

【到達目標】

- 1) 主な精神症状・状態について、症状・状態を引き起こす疾患について理解する。
- 2) 症状・状態を経験している患者の看護を理解する。
- 3) それぞれの症状・状態のアセスメントと援助について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 「幻覚・妄想の患者の看護」・「せん妄の患者の看護」 (畠山)
- 第2回 「抑うつ状態の患者の看護」・「興奮状態の患者の看護」 (畠山)
- 第3回 「拒絶的な患者の看護」・「引きこもり状態の患者の看護」 (畠山)
- 第4回 「操作をする患者の看護」・「自殺・自傷行為がある患者の看護」 (畠山)
- 第5回 「意欲減退状態の患者の看護」・「攻撃的行動をとる患者の看護」 (高山)
- 第6回 「認知症の患者の看護」・「不安状態の患者の看護」 (畠山)
- 第7回 「強迫行為のある患者の看護」・「躁状態の患者の看護」 (高山)
- 第8回 事例による看護過程展開演習① (高山)
- 第9回 事例による看護過程展開演習② (高山)
- 第10回 「パニック障害の患者の看護」・「児童・思春期・青年期の精神看護」 (高山)
- 第11回 「社会の中の精神障害者」 (高山)
- 第12回 「身体合併症患者の看護」・「医療観察法で入院した患者の看護」 (高山)
- 第13回 「不眠状態の患者の看護」・「依存状態の患者の看護」 (畠山)
- 第14回 「解離性障害の患者の看護」・「摂食行動の障害の患者の看護」 (畠山)
- 第15回 まとめ

【授業実施方法】

主として講義形式で行う。演習については事前にオリエンテーションをする。

【授業準備】

授業の各回で示されている（原因となる疾患）については予習してくること。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護学実習」

【教科書等】

川野雅資 編集 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版 ニューベルヒロカワ出版, 2015.

【参考文献】

吉松和哉 小泉典章 川野雅資 編集 「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 ニューベルヒロカワ出版, 2015.

【成績評価方法】

授業参加態度（10%）演習への取り組み（10%）後期定期試験（80%）により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

様々な事例を通し精神を病む人とその家族への看護について一緒に考えて行きましょう。